

科目名	社会心理学	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			総合政策学部	□ 必修 ■ 選択
			学科	□ 必修 □ 選択
英文表記	Social Psychology	開講年次	■ 1年 □ 2年 □ 3年 □ 4年	
		開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中	
ふりがな	せと ひろし	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	瀬戸 泰	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	「人間は社会的動物である」といわれるように、私たちは日々、社会からの影響を受けつつ、同時に社会に影響を与えながら生活を送っています。社会心理学は、人の心や行動を、社会との関わりの中から説明しようとする学問です。本授業では、社会心理学に関する代表的な実験や理論を学び、社会の中で生きる私たち自身について理解を深めることをテーマにします。			
到達目標	1. 社会心理学に関する代表的な実験や理論を理解し、説明することができる。 2. 社会生活における身近な出来事や現象について、社会心理学的な知見を当てはめて考察できる。			
授業概要	座学を中心に、社会心理学に関する基本的な内容を説明します。単に知識を紹介するだけでなく、具体事例等を織り交ぜ、理論と日常（実践）を往復しながら学べるような視点を意識して授業を行います。			
授業計画				
第1回	イントロダクション	(授業の概要、社会心理学とは、場の理論、文化の影響)		
第2回	集団の中の個人①	(内集団と外集団、社会的規範と同調行動、集団間葛藤)		
第3回	集団の中の個人②	(傍観者効果、権威と服従、社会的役割の影響)		
第4回	集団の中の個人③	(社会的手抜きと補償、集団意思決定)		
第5回	群集行動	(パニック、流言、流行)		
第6回	対人関係	(対人魅力、対人関係の深まり、恋愛関係、愛って何だ?)		
第7回	対人認知	(印象形成、第一印象の影響、非言語の影響、暗黙の性格理論)		
第8回	ステレオタイプ	(様々なステレオタイプ、偏見・差別、ステレオタイプ脅威)		
第9回	障害と社会	(障害とは、医学モデルと社会モデル、障害者差別解消法、合理的配慮)		
第10回	態度と説得	(態度とは、バランス理論、認知的不協和理論、説得の技法)		
第11回	自己意識と対人関係	(自己意識、自己開示、自己呈示)		
第12回	協調関係と葛藤	(社会的交換、囚人のジレンマ、利他的行動、共有地の悲劇)		
第13回	原因帰属	(悪いのは自分なのか社会なのか、公正世界仮説、原因帰属と楽観性)		
第14回	マインド・コントロール	(カルト、マインド・コントロールの手口、脱マインド・コントロール)		
第15回	家族という集団	(家族心理学、円環的因果律、家族療法、解決志向アプローチ)		
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	学習内容の定着を図るため、毎回、復習を行うようにしてください。 授業で学んだことを、日々の経験や日常生活で意識的に当てはめ、考察・活用できるよう努めて下さい。			
履修条件 受講のルール	履修のための条件はありません。			
テキスト	毎回、講義用レジュメを配布します。			
参考文献・資料	山田一成 ほか (編) 『よくわかる社会心理学 (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)』 (ミネルヴァ書房、2007年)			
成績評価の方法	毎回のコメントシート 60%、試験 40% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。			

オフィスアワー	月曜日もしくは火曜日の10:30～12:00 ※上記以外の時間帯でも、研究室に在室中であればお声がけください。 E-mail : seto@nau.ac.jp
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	—
学生へのメッセージ	<p>「なぜ、過剰に空気を読んで、他者や集団に合わせてしまうのか」 「対人魅力や恋愛に影響する要因って何なのだろう」 「物事が上手くいかないのは、自分のせいなのか、世の中のせいなのか」など、皆さんは日常生活で感じたり考えたりしたことはないでしょうか。社会心理学では、こうした「個人」と「他者や集団・社会」との関わりに関する心理・行動的な側面について、様々な興味深い実験等を通じて検証が行われています。私たちは皆、生きている限り社会と関わっており、その意味では社会心理学の知見は、日常生活を送るうえで役立つ実践的な知恵になると考えられます。</p>